

# ISAPH

アイサップ  
ニュースレター

第9号

# News Letter

2010年11月25日発行



写真：健康教育の札を持つ少年

ISAPHはラオスとマラウイの母親と  
子どもたちの保健の向上を支援しています

NPO International Support and Partnership for Health





## JICA 草の根技術協力事業

# 「生き生き健康村づくりプロジェクト」 中間評価会開催

ISAPH 齋藤 智子

平成22年10月27、28日にJICA草の根技術協力事業「生き生き健康村づくりプロジェクト」の中間評価会をJICA九州、ラオス、外務省、保健省、カムアン県保健局およびセバンファイ郡保健局からの列席のもと盛大に開催しました。

この中間評価会は活動視察と評価会の2日にわたり実施されました。活動視察はISAPH新職員であるサイヤシンさんが実施した「栄養と手洗い」に関するパネルシアターを用いた参加型の健康教育で、「手洗い」は演習も取り入れたものでした。参加したお母さん達の中には、積極的に参加する人もいて大いに盛り上がりました。活動報告では県保健局のカウンターパートのカンケオ氏とプロジェクトマネジャーの岩田さんが発表しました。

参加者からは活動に対する様々な意見が出ました。例えば「プロジェクトはラオスの政策やミレニアム開発目標と一致していて良い」「関係者がパートナーシップで協力していてよい」「活動は健康増進に役に立っており、村に根付いている。村人のエンパワーメントに関して重要なプロジェクトとなっている」などです。

また、今後の課題としては「住民がこれまで得た認識を行動に変えていくようになること」「食物タブー、モッカオ、乳幼児の食事（離乳食）など食事の問題に対して、ラオスの状況を踏まえた対応が取れるようになること」です。

今回の中間評価ではおおむね肯定的な評価を得ることができました。今後、終了時評価に向け成果をあげるべく、活動の修正を行う予定です。



中間評価会の様子



「手洗い」の演習

# 健康教育手法 研修報告

ISAPHラオス 岩田 和子

平成22年8月16日、17日に健康教育手法研修を行いました。講義は、セバンファイ郡保健局会議室で、実習はシーブンファン地区ブンファンナータイ村で実施しました。参加者は県保健局職員1名、セバンファイ郡保健局長はじめ職員計12名、ヘルスセンター職員計5名、ISAPH職員（日本人4名含む）計7名で、講師はカムアン県保健局健康教育課長と職員でした。

JICA草の根技術支援事業の一環として、ISAPHに  
関係する職員の健康教育技術の基本とパネルシアター  
の使用普及のために実施された研修で、参加者は皆気  
心が知れた人ばかりのため、冗談も飛び交うなど終始  
和やかなムードでした。

講師である県保健局健康教育課長より、健康教育の  
基本と健康教育の進め方などについての講義の後、健



Dr. サイヤシンの健康教育の様子

康教育課職員より健康教育に用いる機材とその効果的  
な使い方などについて講義を行い、また、パネルシアター  
の使用法について岩田が簡単な説明を実施しました。

午後からは各グループに分かれパネルシアターを用  
いた健康教育を計画し、翌日には実際にブンファンナ  
ータイ村で健康教育を実施しました。

会場には80人以上の村人が集まりましたが、皆経  
験者のためか臆する様子もなく、堂々としていました。  
ISAPH新職員のDr. サイヤシンも飛び入りでゲームを  
取り入れたパネルシアターの健康教育を披露しました。

実習後は参加者より感想や評価が述べられ、県保健  
局カウンターパートのDr. カンケオより研修修了証が  
授与され、ISAPHからはパネルシアターを用いた健  
康教育を実施してもらうよう、パネルと布を配布しま  
した。

今後は、ISAPHと郡保  
健局での合同健康教育や、  
郡保健局のモバイルチーム  
の人たちによる健康教育が  
できるようになればと思い  
ます。



グループワークの様子

# 聖マリア病院・ISAPH 共同主催による 国際協力シンポジウムを開催

ISAPH ラオス ほんどう 梶 清美

平成22年7月17日、聖マリア学院大学において「国際協力の現場から(ラオスでの国際保健協力活動)」と題する保健分野における国際協力シンポジウムを開催しました。

はじめに、ISAPH 理事長の小早川先生から挨拶があり、その後、今回のシンポジウム座長である学校法人ありあけ国際学園保健医療経営大学学長の橋爪先生より保健医療分野における国際協力についてお話がありました。

特別講演では、ラオス国カムアン県保健局長のトーラカン氏より「ラオス保健政策とその課題」について、国の保健政策に基づいたカムアン県の保健事業、特に母子保健事業に関して報告されました。また、同保健局長保健サービス発展課 ISAPH 顧問のカムコン氏より「地方における保健活動」について郡レベルでの具体的な保健活動について講演されました。

活動報告では、元 JICA 専門家で、現在聖マリア病院勤務の帖佐徹先生から「ポリオ根絶事業を中心にラオスにおける日本の保健協力の歴史」、また NPO 法人じゃっど事務局長の帖佐理子先生から「ラオスにおける保健教育活動」について発表がありました。さらに、ISAPH から、ラオスのプロジェクトマネージャーである岩田さんにより、母子保健プロジェクトの現状や JICA 草の根技術協力事業について報告が行われました。



発表の様子

多くの参加者から「国際協力や開発途上国の保健について理解できた」という評価を頂いた他、是非このようなシンポジウムをこれからも開催してほしいとのお声を頂きました。



質疑応答の様子

## JICA 草の根技術協力 活動事業の専門家派遣

ISAPH 事務局 磯 東一郎

平成22年10月18日～30日まで JICA 草の根技術協力事業「生き生き健康村づくりプロジェクト」の中間評価のため、ラオスに派遣されました。今回の評価には、カムアン県庁、県保健局及びセバンファイ郡保健局からの地元の関係者に加え、ラオス保健省、外務省関係者、そして日本側からも JICA ラオス事務所並びに JICA 九州国際センター草の根技術協力担当の方の参加があり、大掛かりなイベントとなりました。

この中間評価では、これまでの活動実績と健康教育活動用に作成した教材各種、そして当プロジェクトの主である栄養、母乳栄養、衛生（手洗い、沸かし水の飲料）教育活動の成果を確認するための住民理解度調査結果を報告しました。

当プロジェクトにおける健康教育の方針は、教育レベルの低い住民でも理解できるように「楽しく、分かり易く、興味を持って学べる」ことで、昨年、絵人形をパネルに貼って楽しんでもらうようパネルシアターを導入しました。今回の評価では、ISAPH の健康教育活動を知ってもらうため、郡保健局担当者と ISAPH による健康教育活動の視察を組み込みました。

私も1年ぶりに教育活動を観たのですが、そのレベ

ルの向上に大変驚きました。内容は、栄養教育ではパネルシアターを使用した食材の3大栄養素分け競争、手洗い教育では住民によるロールプレイを取り入れたものでした。どれも非常に楽しく、住民参加型の教育活動としては非常に高いレベルに成長したと思います。視察した保健省、外務省やJICAの参加者の皆さんからもこのように住民が参加し楽しみながら教育が行われるのは今までなかったと大変高い評価を頂きました。

今後もこのような創意工夫を凝らした健康教育を続けていってほしいと思います。



健康教育の様子



評価会参加者で記念撮影



アイ

## I サイクルプロジェクト計画の推進

ISAPH 事務局

ペットボトルのキャップ収集によるエコ活動とその収益金を有効利用するための「I (アイ) サイクルプロジェクト計画」が実施に向け動き出しました。これは、「I (私) が始めるリサイクルで、人と環境に(愛)を循環(サイクル)させるための活動」で、当ISAPHの支援団体である聖マリア病院にキャップ収集ボックスを設け、業者による買い取りを得て、その収益金をISAPHなどの社会奉仕活動に寄付するというものです。

同プロジェクトは、聖マリア病院、戸田建設九州支店、(株)プラテクノマテリアル、九州工業大学大学院(工学研究院先端機能システム)、財団法人福岡県環境保全公社福岡県リサイクル総合研究センターの皆様により推進されています。ISAPHはこの収益金よりご寄付を頂き、ラオスなどでの住民への保健医療活動に使わせて頂く予定です。I (アイ) サイクルプロジェクト開始のあかつきには、皆様のご協力をお待ち致します。



# ラオスってどんな国？ ⑤

ISAPH ラオス 藤倉 友



タケーク近郊の風景

## タケーク観光名所の洞窟

ISAPHラオス事務所は、タケーク市というカムアン県の県庁所在地に位置しています。今回は自然が壮大なタケークの観光名所をご紹介します。

町からベトナムの方角に少し進むと、変わった形の山々と大小たくさんの洞窟が点在しています。中でも有名な洞窟はタムエインとタムパです。タムとはラオス語で洞窟を意味します。

タムエインは比較的大きく、探検気分で洞窟の奥まで入り込んで鍾乳洞を見ることができます。また、空気も水も冷えているため洞窟周辺はとても涼しく、週末にはピクニックに訪れるラオス人で賑わっています。

## 大自然の中のお寺

次に、タムパですが、ここは大自然の中のお寺となっています。神聖な場所なので、女性は必ずシン（長い巻きスカート）を着用しなければなりません。シンを持参していない人に有料で貸し出しするレンタルおばさんも駐在しています。急な階段を登った先には、小さな穴の入り口があり、そこを抜けると広い空洞になっていて数百体もの仏像が迎えてくれます。ラオスの人々

にとっても、観光というよりはお参りに行くという意味合いが強いかもしれません。高い場所に位置しているため、見晴らしが良く景色がとても綺麗です。

## 心が落ち着く場所

また、シーコッタボンというお寺もタケークの数少ない観光地の一つです。お寺ですので普段から皆お参りに行くのですが、時折大きなお祭り会場へと変貌するため、イベント時には多くの人々が訪れます。町から少し離れた静かな場所で、またメコン川沿いに位置しているためか、心が落ち着くスポットです。

どれも華々しさはないものの素敵な場所ばかりです。この記事を通して少しでもタケークの空気をお届けできたら嬉しいです。



洞窟タムパ



夕暮れのシーコッタボン寺院



洞窟タムエイン

# 中央大および東邦大からの スタディツアー受け入れ

ISAPH ラオス 藤倉 友

ISAPHでは「相互の知識と経験を活かした保健人材育成支援」を活動の柱の一つとして掲げ、国内の人材育成を重要課題と考えています。例年、聖マリア病院職員のスタディツアーや聖マリア病院臨床研修医のフィールド研修を支援してきました。

今年は、初めて中央大学経済学部学生8名のスタディツアーを受け入れる機会を頂きました。短時間でしたが、カムアン県保健局と県立病院を訪問しました。また、昨年に引き続き、東邦大学の看護学生8名も受け入れをさせて頂きました。本年は大学側の強い要望から、村のヘルスセンターの見学や看護学校での発表、ラオスの看護学生との交流など、新たなプログラムも組み込んだ充実したスタディツアーとなりました。

未来を担う学生の皆さんにラオスの医療現場を肌で感じてもらいたい、どんなことでも学んでほしいとの思いで対応させて頂いていますが、いつもこちらの期待以上に応えてくれることに嬉しさを感じています。



東邦大学の学生さんとカムアン県看護学校の学生さんたち

## ラオスに赴任しました

ISAPH ラオス <sup>はんどう</sup> 椋 清美



椋職員（右）

皆様、はじめまして。8月中旬にISAPHラオス事務所へ赴任しました、<sup>はんどう</sup>椋清美です。早いもので、タケクへ来てすでに3カ月あまりが経過しました。

私は青年海外協力隊（職種：臨床検査技師）として1997年～1999年までビエンチャンの総合病院検査室で活動を行っていました。今回のラオス着任は、約10年来のラオス再訪となります。

この3カ月間で、郡保健局職員を対象とした健康教育手法研修の開催、シーブンファン地区での定期活動、カンペタイ地区やカシ地区での情報収集、JICA草の根技術協力事業中間評価などに携わりました。これらは、私が今まで経験したことの無い分野であり、毎回、新たな発見や関心、また、考えさせられることが多くありました。今後はこの3カ月間で得たことを忘れず、ISAPH職員やカウンターパートと共に、活動対象地区の母子を中心とした住民の栄養と衛生状態が少しでも改善できるよう、活動に励みたいと思います。

## 最近のできごと

2010年7月～10月

**7月17日** 福岡県久留米市の聖マリア学院にて保健分野における国際協力シンポジウム「国際協力の現場から（ラオスでの国際保健協力活動）」を聖マリア病院と共同開催

**8月16日～17日** セバンファイ郡保健局・ヘルスセンター職員に対する健康教育手法トレーニング実施

**9月6日** 中央大学経済学部のスタディツアー8名受け入れ

**9月15日～17日** 東邦大学看護学生対象のスタディツアー10名受け入れ

**10月18日～30日** ISAPH事務局長磯東一郎が中間評価及び準備のためラオスに派遣

**10月27日～28日** JICA 草の根事業中間評価会議実施



## 入会と寄付のお願い

ISAPHの活動を発展させるために、一人でも多くのご入会、ご寄付をお待ちしております。

**法人会員** 入会金：30,000円 年会費：30,000円

**一般会員** 入会金：3,000円 年会費：3,000円

入会ご希望の方、ご寄付をお願いできる方は、当東京事務所までご連絡いただければ幸いです。

### 【振込先】

郵便振込 口座名 特定非営利活動法人ISAPH  
口座番号 00180-6-279925

### 特定非営利活動法人ISAPH 東京事務所

〒105-0004

東京都港区新橋3-5-2 新橋OWKビル3階

TEL.03-3593-0188 FAX.03-3593-0165

E-mail tokyojimusho@isaph.jp

URL <http://isaph.jp/>

## 東京事務所案内図



【ISAPHニュースレター 第9号 編集スタッフ】

磯東一郎／榎村さおり／中野博行

## ISAPHの役員名簿

役職	氏名	備考
理事長	小早川隆敏	東京女子医科大学名誉教授
理事	深見 保正	元福岡県企業管理者
理事	湯川 武	早稲田大学研究院教授
理事	樋口 敬記	梓設計九州支社特別顧問
理事	浦部 大策	聖マリア病院国際事業部
監事	竹之下義弘	弁護士（東京六本木法律事務所）

社会医療法人  
雪の聖母会



## 聖マリア病院

理事長：井手義雄 病院長：島 弘志

〒830-8543 福岡県久留米市津福本町422  
TEL.0942-35-3322(代) FAX.0942-34-3115  
URL <http://www.st-mary-med.or.jp>

- 厚生労働省臨床研修指定病院
- 厚生労働省歯科臨床研修施設
- 厚生労働省臨床修練病院
- A Baby-Friendly-Hospital-Initiative (赤ちゃんにやさしい病院) WHO・ユニセフ指定
- 日本医療機能評価機構認定施設 (一般病院 Ver.5.0)
- 総合周産期母子医療センター (NICU・MFICU)
- 福岡県救命救急センター
- 地域医療支援病院
- がん診療連携拠点病院
- 福岡県救急告示病院
- 福岡県地域災害拠点病院
- 福岡県エイズ治療拠点病院
- 日韓医療技術協力指定病院
- 自動車事故対策機構療護施設
- ISO 15189 認定施設
- 福岡県肝炎患専門医療機関

※本ニュースレターの発行は、社会医療法人雪の聖母会聖マリア病院にご協力を頂いています。